

奄美野生生物保護センター
季刊ニュースレター



Vol.8 No.3 (春号)
通巻32号

発行・編集

奄美自然体験活動推進協議会

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝551

奄美野生生物保護センター

TEL: 0997-55-8620 FAX: 0997-55-8621

E-mail: amami_rabbit@nifty.com

奄美の風だより

梅雨です。降り続ける雨のおかげでじっとりした湿気があり、日が差せば気温は上昇、サウナの中にいるような蒸し暑さです。さて、降り続ける雨は湿度を上げますが、私のテンションは逆に下がる一方です。外に出るのが面倒になり、家に引きこもりがちになってしまい、扇風機にあたりながら家でゴロゴロ……。しかしずっと引きこもっているわけにはいかず、重い腰を上げ買い物などの用事で外に出ると、ふと白い花がいたるところで咲いているのに気付きました。その白い花はゲットウとイジユで、奄美の梅雨を代表する花です。昔からよく使われているからでしょうか、いたるところに植えられています。ゲットウは食べ物の包装に、イジユは高倉などの材木として使われてきたそうです。



↑
イジユ

←
ゲットウ

どんよりとした空の下でも白い花はよく目立ちとてもきれいで、花をみて季節を味わうのはとても気持ちがよいものだと気づきます。

降り続ける雨とじっとりとした空気ですら十分季節感を味わっていますが、花を見て季節感を味わってみませんか？ 深呼吸をしたようなほっとした気持ちになります。(A.Y)

センターからのお知らせ

〈 アマミノクロウサギ交通事故防止看板設置 〉

最近、年間何十頭ものアマミノクロウサギが交通事故で死んでいます。鹿児島県は、交通事故を防ぐために国道沿いなどに道路標識を設置しています。奄美野生生物保護センターではこのたび、交通事故が発生しやすい場所に簡単に移動できる注意看板を瀬戸内町に12基、龍郷町に4基を設置しました。看板が目につきやすいようにソーラー式の点滅ランプも付けてあります。フンが増えてきた、幼獣が目撃されたなど、季節や最新の状況に

応じて移動できるため、きめ細かく効果を発揮できるのではないかと期待されています。

夜の山道ではスピードは出さず、野生動物に注意して車の運転をしていただくようみなさまのご協力よろしくお願いします！



〈 平成20年4月付けで自然保護官が増えました。 〉

～田中自然保護官より自己紹介～

みなさま、はじめまして。

環境省奄美自然保護官事務所（奄美野生生物保護センター）の田中準（たなか じゅん）です。4月に奄美で2人目の自然保護官として赴任しました。

環境省に入って11年経ちますが、これまでの勤務地は東京以外では青森県、北海道と寒いところが主でした。青森県では、十和田八幡平国立公園で国立公園の現地管理業務、北海道の知床では、公園利用の適正化、エゾシカやヒグマ対策、外来植物対策や世界自然遺産への推薦から登録までの業務、東京では南極の環境保全に、全国の国立公園での開発案件の許認可業務や外来緑化植物対策などに携わってきました。



南の暖かい地域での勤務は今回が初めてで、奄美に来るのも初めてです。奄美に到着した日（4/8）に家の近くの浜に出たところ、多くの方が浜に出かけていくのを見ました。緑深い山々を背にして前方に広がる青い海に島の人々が出て行き、貝などを採っている光景を目の当たりにして、島の人々の生活と自然とのつながりが感じられ、すぐにここが好きになりました。

奄美では、国立公園指定や世界自然遺産推薦に関する業務を担当させていただきます。奄美群島は固有の動植物が多いユニークな自然が残されているだけでなく、昔ながらの文化を今なお残している所だと聞いています。これから奄美の自然や文化について自分の足で歩き、自分の目で見て覚えていこうと思います。

国立公園指定や世界自然遺産への推薦をツールにして、奄美群島のいいところを残しながらよりよい奄美群島にするためのお役に立てるよう頑張っていきますので皆様のご指導とご協力をお願い致します。

センターと協議会の活動報告

特別企画展 〈ツシマヤマネコ展〉

展示期間：2月5日（火）～2月29日（金） 来館者数82名



ワイルドライフセミナー 〈なかなか手強いマングース〉

と き：2月23日（土）

場 所：奄美市立奄美博物館 参加人数37名

「イシカワガエルはどんな場所に多いのか～山の形から考える～」

講師：川崎 菜実（東京大学大学院農学生命科学研究科）

「マングースの影響が強い理由～奄美大島特有の仕組みがわかってきた～」

講師：巨 悠哉（東京大学大学院農学生命科学研究科）



ワイルドライフセミナー 〈はじめて知る蚊（ガジャン）のはなし〉

と き：5月26日（月）

場 所：奄美野生生物保護センター 参加人数27名

講師1：宮城 一郎（琉球大学 名誉教授）

講師2：當間 孝子（琉球大学医学部 教授）



＜ わきゃあまみ第7弾 「奄美の花 100」 の紹介 ＞

平成 19 年度協議会事業としてわきゃあまみ⑦「奄美の花 100」を作成しました
奄美の島々は、一年中様々な花に彩られています。「奄美の花 100」は、よく見られる
花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

配布先は主に奄美群島内の小学生です。若干の余部がありますのでご希望の方はご連絡
を下さい。

※「わきゃあまみ」シリーズは、奄美の野生生物のことを地域の子もたちによく知って
もらうために作られています。

わきゃあまみの 奄美の花 100

※作：あまみ 奄美群島協議会事務局
発行：あまみ 奄美群島協議会事務局
発行所：あまみ 奄美群島協議会事務局
発行年：2017年

奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

刺ってなに？

● 奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

● 奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

花ごよみの見方

● 奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

● 奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

表の見方

● 奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

● 奄美の島々には、美しい花が咲き誇ります。奄美の花 100 は、奄美の島々を彩る花を中心に、よく見られる花や奄美を代表する花を中心に 100 種類を紹介しています。

No.	花名	科	花期	生育地	特徴
1	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
2	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
3	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
4	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
5	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
6	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
7	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
8	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
9	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
10	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
11	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い
12	アザミ	キク科	7月～9月	山地	花が黄色い

わきゃあまみの 奄美の花 100

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

※A2 サイズの両面です

〈 アマミノクロウサギ着ぐるみ愛称決定！！ 〉

その名は

あまくろ



奄美野生生物保護センターと奄美自然体験活動推進協議会では、アマミノクロウサギ保護について親しみを持ちながら理解を深めていただくために「着ぐるみ」を制作し、アマミノクロウサギが生息している、奄美大島と徳之島の小中学校に通学する児童生徒に、着ぐるみの愛称を募集しました。

応募総数は109点で、その中から大和村立今里中学校の宮田亜美さん（中学3年生）が考えてくれた「あまくろ」に決定しました。

命名式は今里小中学校で開催し、保護者の方・地域の方にも参加していただき、とても素晴らしい式になりました。

事前に今里小中学校の校長先生に命名式のことをお願いしたところ、お立ち台に紅白幕・花など色々準備をしてくださりととても感謝していましたが、何より嬉しかったのが「あまくろ」の歌を作ってくれていたことでした！命名式では、あまくろと児童生徒が一緒に歌い、踊りました。

これから、様々なイベントで活躍していきますので、みなさま「あまくろ」のことをよろしくお願いします！

「あまくろ」ベストショット！！



マングースだけじゃない!

島に蔓延る外来植物たち

Part 1: 沿道を被うギンネムやセンダングサ



外来植物がはびこることがなぜいけないのでしょうか？

外来植物とは、人間によって他の地域から持ち込まれた植物のことです。

外来植物のなかには、地域の生態系に侵入して、もともたにある植物(在来植物)の生育場所を奪ってしまうものもあります。さらに、その在来植物と関係を持っている、ほかの生きものにも影響してしまうかもしれません。

数百万年という長い時間をかけて進化してきた奄美の生きものたちは、生きもの同士、お互いさまざまに関係しあいながら生活しています。

野外に広がった外来植物は、島の生態系に対して、私たちの思いもよらない影響をおよぼすかもしれないのです。

私たちは、奄美の生態系への外来植物の侵入に対してもっと注意をはらう必要があります。

外来植物が地域におよぼす影響

外来植物が生態系におよぼす影響としては、ここで取り上げたギンネムやセンダングサのように、①在来の植物の生息地を奪ってしまう場合や、②在来生物に病害虫を伝染させる(たとえば松食い虫)、③在来植物と交雑して、その遺伝的特性を失わせてしまう、などがあります。

さらに、外来種が牧草地や農耕地にはびこって、家畜や農作物の育成を阻害するといったような、**農林業に対する悪影響も少なくありません。**

右 他感作用が問題とされている外来種セイタカアワダチソウ



アサギマダラとヤマヒヨドリバナの関係

秋になると、林道沿いに在来植物であるヤマヒヨドリバナが花を咲かせます。その花に、海を渡って来たアサギマダラが群れている光景は、奄美の秋の風物詩です。

ヤマヒヨドリバナの花に群れるアサギマダラのオスは、花から蜜とともに、フェロモンのもととなる物質を得ていることが知られています。

ところが、このヤマヒヨドリバナの生育する場を、そこに侵入した外来植物センダングサが奪ってしまいます。もしヤマヒヨドリバナがなくなったら、その花を頼りにしていたアサギマダラは子孫を残すのが難しくなってしまいます。

今後、私たち島の人間が取り組むべきこと

外来植物の継続的な分布調査（モニタリング）を行う

世界自然遺産登録を目指す小笠原では、島本来の自然を取り戻すために、すでにギンネムなどの分布調査と駆除に取り組んでいます。

同じく世界自然遺産登録を目指す奄美でも、**ギンネムなど外来植物を、継続的に調査していく必要があります。**



写真 A 木陰の多い林道には、センダングサも少ない。



写真 B 在来種に配慮した草刈りの例：ノボタンが残された県道沿い

世界自然遺産にふさわしい道と道沿いのあり方について考える

- ①道沿いにどのような植物があるか、および
- ②道沿いの外来植物が生態系にどのような影響をおよぼすか、もっとよく知る必要があります。
- ③道が生態系に与える影響についても知る必要があるでしょう。それにより、道の新設計画や整備・管理の見直しも必要になるかもしれません。(写真 A, B)



写真 C 放棄された旧道は自然散策路として活用を！（旧マテリア林道）

④すでにある林道や、バイパスの開通で交通量の減った旧道を、自然とふれあうための散策路として活用することはできないでしょうか。(写真 C)

すべての外来植物が問題なのでしょうか？

外来植物すべてが問題になるわけではありません。農作物などは、人間の役に立つ外来植物です。問題になるのは、人間の管理下から離れて、道端や森の中など野外、とくに自然の生態系や農耕地に入り込んでしまったものです。

生態系や農林水産業、人の健康などに対して大きな影響をおよぼす恐れのあるものは、**侵略的外来生物**と呼ばれています。



写真：ハイビスカスも外来種

外来生物被害予防三原則

- 1) 入れない！
他の地域の生きものを、むやみに島に持ち込まない
- 2) 捨てない！
いま飼ったり、育てたりしている外来生物を、自然の中に捨てない
- 3) 拡げない！
自然の中にいる外来生物を、ほかの地域に拡げない

センダングサやギンネムに覆われた道端の風景と、季節の移り変わりにつれて様々な在来植物の花の咲く沿道の風景と、奄美の風景としてどちらがふさわしいと思いますか

奄美大島における外来植物ギンネムとセンダングサ類の分布



ギンネム



メキシコおよび中央アメリカ原産のマメ科の小高木。家畜の飼料や砂防用、パルプ用材などのため導入された。

耐陰性が弱く、種子散布力も弱いため、在来林に侵入する能力は低いですが、一度定着すると、強い再生能力のため駆除するのが難しい。

ギンネム林に近い場所での植生破壊や裸地の造成は、新たな侵入を引き起こし、道路沿いの裸地は侵入の経路となる（右上写真参照）。

このような場所での在来樹種の保護や植栽・育成が、ギンネムの侵入防止に効果的である。

（外来種ハンドブック（日本生態学会編 村上興生・鷺谷いづみ監修 2002）より抜粋）

環境省の要注意外来生物に指定されており、IUCN（国際自然保護連合）の「世界の侵略的外来生物ワースト 100」にも選ばれている。

センダングサ類の分布

- 凡 例
- 調査した道
 - センダングサのあった場所



調査方法および期間

2007年10月22日から12月25日にかけて、日々の野外作業の合間や、車での往き帰りなどの際に、道沿いで見かけた位置を記録した。

センダングサ類

奄美大島には、白い花びらを持つものとして、**タチアワユキセンダングサ**（別名シロノセンダングサ）と、**シロバナセンダングサ**（コシロノセンダングサ）が分布している。この二つはともに**コセンダングサ**の種内変種とされている。

また、花びらを持たない**アメリカセンダングサ**も一部では生育していた。これらはいずれも外来植物（北アメリカ大陸原産）なので、調査では区別せずに記録した。

タネには棘があり、衣服に付着して運ばれ、広まっていく。



タチアワユキセンダングサ、コセンダングサ、アメリカセンダングサは、環境省の要注意外来生物に指定され、また日本生態学会による日本の侵略的外来種ワースト 100 にも選ばれている。

企画制作：奄美マングースバスターズ



奄美大島生きもの情報(寄せられた情報の一部)

場所が非公開のもの



リュウキュウアサギマダラ

日時:08.3.20 13:50
状況:十数頭、集団越冬していました。羽の細かい模様が美しい。



アマミエビネ

日時:08.4.7 11:00
状況:可憐な花を咲かせていた。花期は3-4月。



レンギョウエビネ

日時:08.4.18 10:00
状況:林内の朽ちた倒木に生えていた。



ケナガネズミ

日時:08.5.5 19:35
状況:最初に発見したときには路上にいた。まもなく近くの木に登った。



ノビタキ

日時:08.4.20 13:00
発見場所:笠利町万屋
状況:農耕地のスプリンクラーの上に止まっていた。オスで夏羽。



ハルザキヤツシロラン

日時:08.4.20 12:20
発見場所:大和村
状況:地表に積もった落ち葉の間に埋もれるように花が咲いていた。



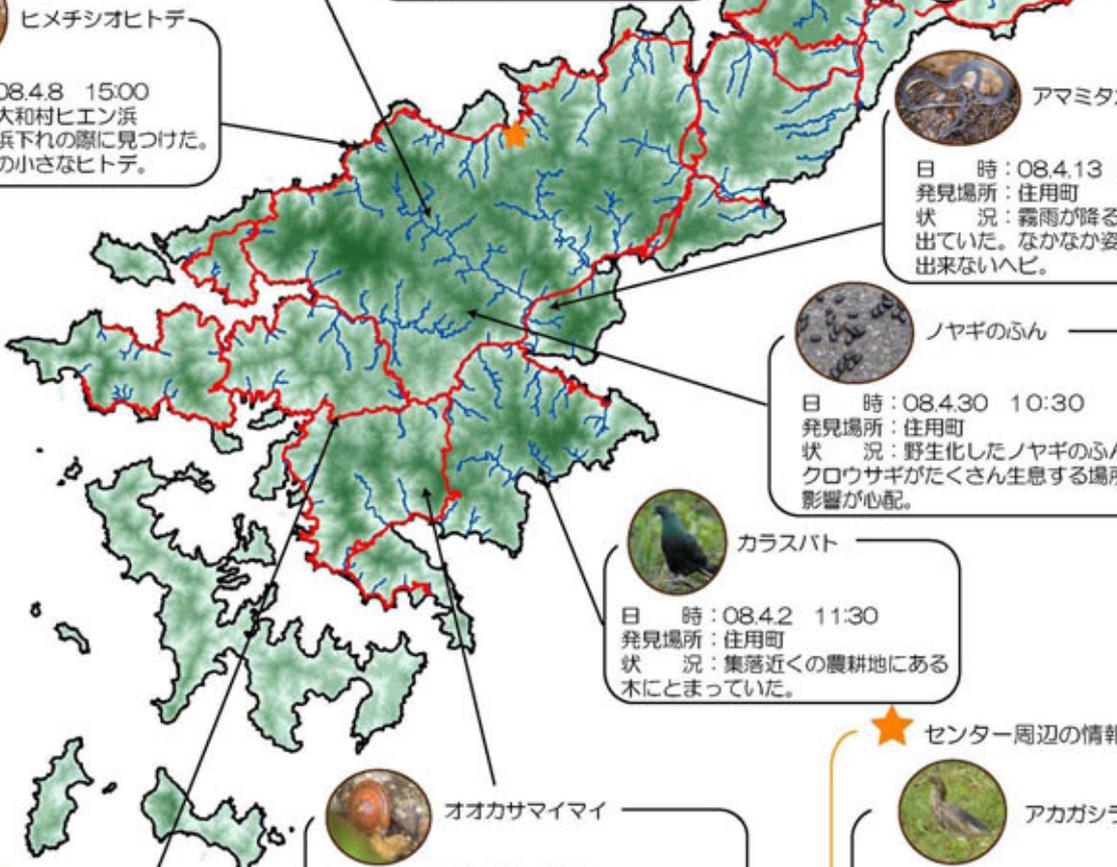
キアシシギ

日時:08.3.30 13:00
発見場所:龍郷町秋名
状況:一本足で休息しているところを見つけた。水田はシギたちの採餌・休息の場として重要な地域の一つ。



ヒメチシオヒトデ

日時:08.4.8 15:00
発見場所:大和村ヒエン浜
状況:浜下れの際に見つけた。2cmくらいの小さなヒトデ。



アマミタカチホヘビ

日時:08.4.13 0:00
発見場所:住用町
状況:霧雨が降る夜中、路上に出ていた。なかなか姿を見ることが出来ないヘビ。



ノヤギのふん

日時:08.4.30 10:30
発見場所:住用町
状況:野生化したノヤギのふんがあった。クロウサギがたくさん生息する場所なので影響が心配。



カラスバト

日時:08.4.2 11:30
発見場所:住用町
状況:集落近くの農耕地にある木にとまっていた。



オオカサマイマイ

日時:08.4.17 11:10
発見場所:オオカサマイマイ
状況:キノコを食べていた。笠のような殻をもつ。



アマモシシラン

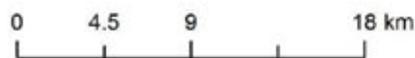
日時:08.4.15 12:00
発見場所:大和村
状況:沢の上にはり出た木に付着したオオタニワタリに付着していた。

★センター周辺の情報



アカガシラサギ

日時:08.4.29 12:09
発見場所:センター前の池
状況:2年ぶりにセンターで確認。まだ、冬羽だった。



春に見られる野生動植物

巣作り・産卵・子育てと、今の時期に見ることのできる動物たちの営みをご紹介します。

巣作り [コゲラ キツツキ科]

ドラミングが聞こえたので探してみると、巣作り中のコゲラを発見しました。こちらに気づき、様子をうかがっていました。

1週間後に同じ木でコゲラを見ましたが、作っていた巣で卵を産みヒナを孵らせたのかは分かりませんでした。

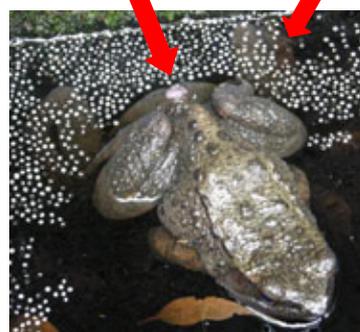


産卵 [オットンガエル アカガエル科]

林道脇にある集水枡の中をのぞいてみると、オットンガエルが産卵していました。産卵シーンはそうそうお目にかかれませんが、カエルは夜間に産卵することが多いのですが、このときは曇天の昼間。

すでに、産み出されたかなりの数の卵が水面に浮いていました。オスの下にいるメスは完全に水の中。おしりだけを水面に突き上げて少しずつ卵を出していました（写真右）。驚いたことに、観察をしていた約5分間、メスは呼吸をしていませんでした。

メスのおしり メスの足



← [アマミハナサキガエル アカガエル科]

このカエルのおたまじゃくしは野外では発見されたことがなく、生息場所が分かっていなかったのですが、2006年5月にセンター職員により発見されました。

このお話は7月発行予定の風だよりに載せたいと思いますので、乞うご期待！

子育て [リュウキュウツバメ ツバメ科]

センター近くにある漁協の建物で見つけました。巣は泥をかためてうまく壁にくっついていました。その中には3羽のヒナがいて、ときどき親がエサを運んできます。そのたびに大きな口を開けておねだりしていました。



～ 番外編 ～

これがなんだかみなさんわかるでしょうか？この銀色の物体はなんと「カビ」です！アマミノクロウサギのフンに生えたカビなのですが、フンがカビに隠れてほとんど見えません。季節によってフンに生えるカビは違うらしいです。また、アマミノクロウサギのフンにしか生えないカビもあるそうです。



編集後記

最近デイゴが気になります。センター前に数本植えられているのですが、デイゴヒメコバチに寄生され花が少ししか咲かなかったのです。花が咲く前の3月に寄生されていると気づき、枝を切り落としたのですが・・・残念。去年はきれいに咲き誇り、観光客・地元の方たちがデイゴを写真におさめ、デイゴの木の下でお弁当を広げている風景をよく見かけたのですが、今年は全く見られませんでした。

みなさんの周りにあるデイゴは花を咲かせていますか？デイゴヒメコバチに寄生されてしまったら早い処置が必要とのことです。来年は満開に咲き誇るデイゴを見たいです。



← センター前のデイゴ（08/5/18撮影）
花がまばらにしか咲きませんでした。

